

登録コード	HM107901	開講年度	2026				
授業題目	分子薬理学論文演習					担当教員	内藤 隆文
英文授業名	Thesis Seminar in Molecular Pharmacology					副担当	木村 航
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室				授業形態	演習	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	(授業の達成目標)
	2024HM医学分野知・医学系・医学分野						
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能					⇔	分子薬理学分野および臨床薬理学分野の研究において、文献情報をもとに課題解決の方法を見出すことができるようになる。
(2)詳細/Detailed information	分子薬理学の基礎的理解、先端的研究に対する理解を進めるために、一流誌に投稿された分子薬理学や臨床薬理学に関する論文を読み、教室員の前で紹介し、質疑応答を行う。この過程により、生体からの情報収集能力、生体機能の分析能力の向上を図る。						
(3)授業の概要/Overview of course	一流誌に投稿された分子薬理学・臨床薬理学に関する論文を自主的にPubMedなどを利用して検索し、その論文の背景となる先行研究と併せて読破する。その内容を、パワーポイントなどにまとめ、毎月1回開催される研究室セミナーで、年2回論文を紹介し、教室員からの質疑に応答する。さらに、毎月2回開催される薬剤部セミナーで、年1回論文を紹介し、教室員、薬剤部員からの質疑に応答する。						
(4)授業計画/Course plan	毎月1回行われる研究室セミナーで、随時年10回ジャーナルクラブを開催する。月2回開催されている薬剤部セミナーで、随時年20回ジャーナルクラブを開催する。 授業については、対面での実施を基本とするが、WEB（zoom）を併用（ハイブリッド）する。						
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	以下の点を、評価の対象とする。 1. 文献検索の自主性 2. 紹介文献の質 3. 紹介文献と、その背景となる文献に対する理解 4. 質疑応答の質 5. 紹介文献をいかに自らの研究に引き付けて考えているか 得点率による評価基準は、以下の通りとする。 90点以上 秀、89－80点 優、79－70点 良、69－60点 可						
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	ジャーナルクラブが開催される前だけではなく、平素から論文を精読して準備をしておくこと。						
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	随時質問・相談を受け付ける。 担当教員（内藤）メールアドレス：naitou@shinshu-u.ac.jp						
(8)授業の形式/Course format	パワーポイント、ハンドアウトなどを用いたジャーナルクラブでの論文紹介						